

# 2022年度 環境活動レポート

〔2022年 5月 1日～2023年 4月 30日〕

2023年8月31日

千代田興産株式会社

# 千代田興産株式会社

## 環境方針

### 基本理念

千代田興産株式会社は、「電機技術を通じ社会に奉仕する」の経営理念をもって、地球環境全への取組が最重要課題の一つであることを認識し、従業員一人一人が積極的に継続的に環境負荷を改善していき、社会貢献を目指した企業活動を推進します。

### 基本方針

千代田興産株式会社は、環境に関する法規制を遵守し、法の精神に基づき必要な処置を講じて、環境改善を図ることを目的とし、以下の方針を推進致します。

1. 当社の事業活動に係る環境影響を常に認識し、自主的・積極的に環境負荷の削減を図ります。
2. 当社の事業活動に係る環境関連法規その他の関連事項を遵守します。
3. 当社の事業活動に係る環境影響に関し、以下の事項を環境管理テーマとして取組みます。
  - ①二酸化炭素(CO2)排出量の削減
  - ②水使用量の低減
  - ③廃棄物の削減及びリサイクルの推進
  - ④グリーン購入の推進
  - ⑤省エネに対応した取扱商品を増やす
  - ⑥環境経営を継続的に改善する
4. 当社の環境負荷低減活動を全社員に周知し、環境活動レポート等を作成し、公表します。また、必要に応じて評価と見直しを行い、環境方針の見直し変更を継続的に行います。

制定 2008年7月1日  
改定 2009年9月1日  
改定 2011年7月8日  
改定 2016年9月1日  
改定 2022年9月26日

千代田興産株式会社  
代表取締役 前谷 博久

## 1. 組織の概要

### (1) 事業者氏名及び代表者名

千代田興産株式会社  
代表取締役 前谷 博久

### (2) 所在地

本 社	〒810-0012	福岡県福岡市中央区白金2丁目5-16
東京支社	〒103-0023	東京都中央区日本橋本町4丁目6-7 光洋ビル
大阪支店	〒550-0002	大阪府大阪市西区江戸堀1丁目15-27 アルテビル肥後橋
中国支店	〒730-0037	広島県広島市中区中町7-32 ニッセイ広島ビル
四国支店	〒760-0022	香川県高松市西内町4-6 神原ビル
鹿児島支店	〒890-0052	鹿児島県鹿児島市上之園町25番1号 中央ビル
大分営業所	〒870-0037	大分県大分市東春日町6番1号 つつみビル
岡山営業所	〒700-0984	岡山県岡山市桑田町18番28号 明治安田生命岡山桑田町ビル
神戸営業所	〒650-0023	神戸市中央区栄町通2-3-9 共栄ビル
沖縄営業所	〒900-0015	那覇市久茂地3-9-3 田園ビル4F

### (3) 環境管理責任者及び担当者の連絡先

・環境管理責任者	総務部長 横田 伸天
・環境管理担当者	総務部 宇野 健一
・連絡先	TEL 092-533-2981 FAX 092-533-2999
・E-mail	<a href="mailto:uno.kenichi@cknet.co.jp">uno.kenichi@cknet.co.jp</a>
・URL	<a href="http://www.cknet.co.jp">http://www.cknet.co.jp</a>

### (4) 事業の内容

・電気機器の販売並びに販売に関する設置・保守

### (5) 事業の規模 (各年4月末現在)

区 分	場 所	2019年	2020年	2021年	2022年
従業員(人)	本 社	87	87	86	84
	東京支社	19	18	16	14
	大阪支店・神戸営業所	49	52	54	55
	中国支店・岡山営業所	35	36	34	37
	四国支店	6	6	4	4
	鹿児島支店	10	8	5	6
	大分営業所	6	6	4	5
床面積(m <sup>2</sup> )	本 社	890	890	890	890
	東京支社	152	152	152	152
	大阪支店・神戸営業所	507	507	507	507
	中国支店・岡山営業所	238	238	238	238
	四国支店	56	56	56	56
	鹿児島支店	83	83	83	83
	大分営業所	107	107	107	107

※ 岡山営業所は中国支店が兼任しているため、中国支店の数値に織り込んでいます。  
2018年度中に神戸営業所を開設した。但し神戸営業所は大阪支店が兼任することになるので、  
2019年度から大阪支店に神戸営業所を加えることにする。

(6) 事業年度

・5月～翌年4月

2. 対象範囲

(1) 事業所名

- |               |       |
|---------------|-------|
| 1. 千代田興産株式会社  | 本社    |
| 2. 千代田興産株式会社  | 東京支社  |
| 3. 千代田興産株式会社  | 大阪支店  |
| 4. 千代田興産株式会社  | 中国支店  |
| 5. 千代田興産株式会社  | 四国支店  |
| 6. 千代田興産株式会社  | 鹿児島支店 |
| 7. 千代田興産株式会社  | 大分営業所 |
| 8. 千代田興産株式会社  | 岡山営業所 |
| 9. 千代田興産株式会社  | 神戸営業所 |
| 10. 千代田興産株式会社 | 沖縄営業所 |

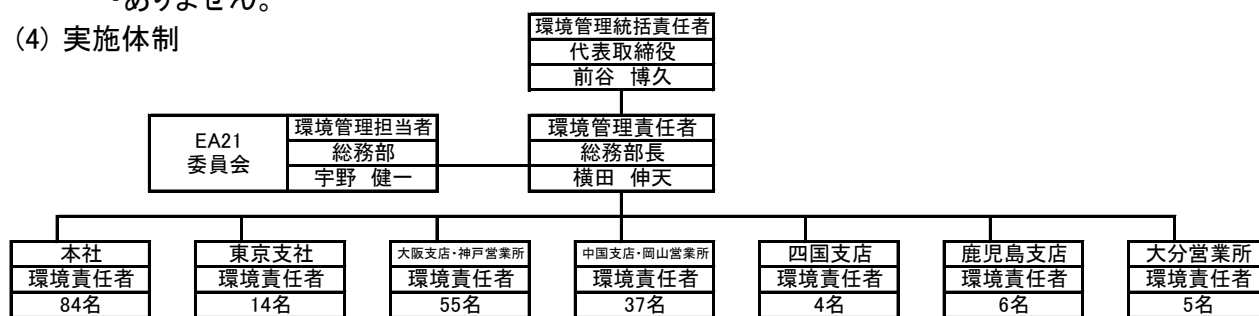
(2) 活動

・電気機器の販売並びに販売に関する設置・保守

(3) 対象外事業所及び対象外事業活動

・ありません。

(4) 実施体制



3. 環境目標とその実績

環境方針に基づいて、以下の目標を掲げて環境活動に取り組みました。

(1) 中期目標

区分	年度	単位	2020年度	2021年度		2022年度		2023年度	
			基準年	2021.05-2022.04		2022.05-2023.04		2023.05-2024.04	
				削減率 (基準年より)	年度目標	削減率 (基準年より)	年度目標	削減率 (基準年より)	年度目標
I 二酸化炭素排出量削減	kg-CO <sub>2</sub>	200,327.8	-1%	198,324.5	-3%	194,318.0	-5%	190,311.4	
①電気使用量	kWh	235,457.5	-1%	233,102.9	-3%	228,393.8	-5%	223,684.6	
②自動車燃料(ガソリン)	L	39,179.7	-1%	38,787.9	-3%	38,004.3	-5%	37,220.7	
③自動車燃料(軽油)	L	6,997.8	-1%	6,927.8	-3%	6,787.9	-5%	6,647.9	
II 水使用量	m <sup>3</sup>	1,075.0	-1%	1,064.3	-3%	1,042.8	-5%	1,021.3	
III 一般廃棄物の適正処理	数量等の目標等なし								
IV グリーン購入の実施	数量等の目標等なし								
V 環境・省エネ商品の取り扱い	数量等の目標等なし								

※ III～Vに関しては、適正処理・経済合理性の範囲での実施・環境省エネ承認の推奨を目的にし、定量把握は行っておりません。

(2) 【第68期(2022年5月～2023年4月)の目標と実績】

区分	年度	単位 (総量)	目標 削減率 (基準年比)	基準年 実績	年度目標	実績	目標達成状況		
							対基準 年度	対年度 目標	自己 評価
I	二酸化炭素排出量削減	kg-CO <sub>2</sub>	-3%	200,327.8	194,318.0	187,100.0	-6.6%	-3.7%	○
	①電気使用量	kWh	-3%	235,457.5	228,393.8	230,473.0	-2.1%	0.9%	△
	②自動車燃料(ガソリン)	L	-3%	39,179.7	38,004.3	32,967.0	-15.9%	-13.3%	○
	③自動車燃料(軽油)	L	-3%	6,997.8	6,787.9	12,244.0	75.0%	80.4%	×
II	水使用量	m <sup>3</sup>	-3%	1,075.0	1,064.3	694.0	-35.4%	-34.8%	○

・二酸化炭素排出量の実績値において、購入電力の排出係数は下記の係数を使用しました。

①本社、鹿児島支店、大分営業所	0.000296t-CO <sub>2</sub> /kWh
②東京支社	0.000384t-CO <sub>2</sub> /kWh
③大阪支店	0.000299t-CO <sub>2</sub> /kWh
④中国支店	0.000529t-CO <sub>2</sub> /kWh
⑤四国支店	0.000484t-CO <sub>2</sub> /kWh

(3) 【主要指標の前年対比】

区分	年度	単位 (総量)	第67期 実績	人数	第67期 1人当たり	第68期 実績	人数	第68期 1人当たり	前年 比
	①電気使用量	kWh	249,943	203	1,231.2	230,473	205	1,124.3	-9%
	②自動車燃料(ガソリン、軽油)	L	46,664	203	229.9	45,211	205	220.5	-4%
II	水使用量	m <sup>3</sup>	684	140	4.9	694	139	5.0	2%

4. 環境活動計画の実施状況と評価

(1) 二酸化炭素排出量の削減

取組対象	達成 状況	取組計画	実施 状況	評価
電気使用 量の削減 (-3%)	○	・エアコンの温度設定 冷房時温度 27℃ 暖房時温度 20℃ ・不要照明の消灯 ・OA機器の節電 ・昼休みの消灯節電 ・太陽光発電	△ △ ○ ○ ○ ○	基準年よりも9%減で計画値を達成できた。コロナ禍における出社制限が緩和された2年目として数値を達成できた。 省エネ活動は取組計画の通り実行中。
自動車燃 料使用量 の削減 (-3%)	○	・エコ運転の徹底 アイドリングストップ タイヤ空気圧点検 法定速度運転の推進 急発進・急加速の禁止 空ぶかしの禁止 エコ車両への切換	○ ○ ○ △ △ △	目標値4%減で達成できた。営業活動における必要不可欠な部分であるので制限は難しいが、気を抜かず頑張り続けてほしい。 eテレマに関しては、エコドライブと安全運転の意識醸成に寄与している。 ドライブレコーダーは全車搭載済みである。 安全運転の慣行に努める。

**(2) 水使用量の削減**

取組対象	達成状況	取組計画	実施状況	評価
水使用量の削減 (-3%)	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水道水圧を下げる</li> <li>・各蛇口の節水</li> <li>・水洗トイレの節水</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○</li> <li>○</li> <li>○</li> </ul>	<p>管理対象は本社と大阪支店のみである。</p> <p>本社で修繕を完了し、概ね利用水準が確定してきた。本社トイレ工事による節水による動向も注視する。</p>

**(3) 一般廃棄物の適正処理**

取組対象	達成状況	取組計画	実施状況	評価
一般廃棄物の適正処理	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現状把握の実施</li> <li>・廃棄物を適正に処分する</li> <li>・リサイクル率の向上               <ul style="list-style-type: none"> <li>古新聞、古雑誌等のリサイクル</li> <li>アルミ缶、スチール缶、瓶</li> <li>ペットボトル</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○</li> <li>○</li> <li>△</li> <li>○</li> <li>○</li> </ul>	<p>社内運用の結果、一般廃棄物の排出量は、社内努力による今以上の削減効果が見込みにくいことや気温等の外的要因(寒暖差における缶・瓶・ペットボトルの増加等)が大きい為、数量把握は本社を除いて中止します。従来通り、適正処理を実施すること。</p>

**(4) グリーン購入比率向上**

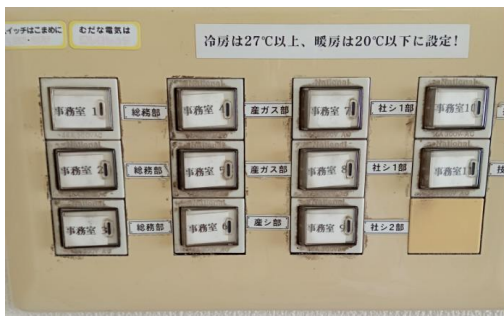
取組対象	達成状況	取組計画	実施状況	評価
グリーン購入比率向上	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グリーン購入対象商品の購入推進</li> </ul>	△	<p>今後、グリーン購入については、目標を意識せずに取り組んでいく。</p>

**(5) 省エネに対応した取扱商品を増やす**

取組対象	達成状況	取組計画	実施状況	評価
環境・省エネに貢献する商品の取扱	△	・環境・省エネ商品提案	△	省エネ提案の件数に拘らず、提案実施から社会的に省エネ製品の普及に寄与する。

\* 各拠点では少々差異はあるものの、全社として取りまとめると上記の達成状況、実施状況となった。以下は活動事例の一例です。

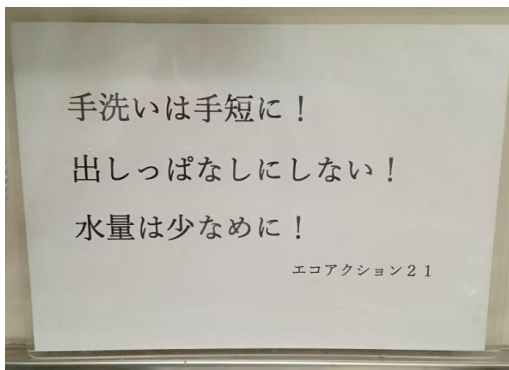
1. エアコンの温度設定関係



3. 一般廃棄物の現状把握(本社のみ)



2. 節水関係



4. 実施状況の報告会



## 5. 次年度の取組み

2020年度から新中期計画を策定し、新規の3カ年目標を設定し目標年から3%減に向けて取り組みました。コロナ禍明けの企業活動2年目ということで各種数値のトレンドがコロナ禍前に一部分戻りつつあります。この期間で効率化できた部分は継続しつつ、企業活動として必要な部分は適正な範囲で利用しましょう。なお、エコアクションに関しては建設業対応版へシフトするため、技術本部と総務部で連携しつつ、現場の業務負担を考慮しながら遅くとも2024年1月を目途に活動を開始する。

## 6. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価並びに違反、訴訟等の有無

当社の事業活動において法的義務を受ける主な環境関連法規は次のとおりです。

適用される法規制等	適用される事項(施設・物質・活動等)	適合状況
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	一般廃棄物(本社) 建設業関連廃棄物(本社・大阪支店・中国支店)	○
フロン排出抑制法	第一種特定製品 業務用の空調機器	○
自動車NOx・PM法	車両管理	○
福岡県・市環境基本条例	本社事業	○
東京都環境基本条例	東京支店事業	○
大阪府・市環境基本条例	大阪支店事業	○
広島県・市環境基本条例	中国支店事業	○
香川県・高松市環境基本条例	四国支店事業	○
兵庫県・神戸市環境基本条例	神戸営業所事業	○
大分県・市環境基本条例	大分営業所事業	○
鹿児島県・鹿児島市環境基本条例	鹿児島支店事業	○
岡山県・市環境基本条例	岡山営業所事業	○

2021年5月に上記の環境関連法規の遵守状況を確認・評価した結果、違反はありませんでした。また、関係機関等からの指摘、利害関係者からの訴訟もありませんでした。



## 7. 代表者による全体評価と見直しの結果

### 電機技術を通じ社会に奉仕する

代表取締役社長 前谷博久



本年度より新たに2020年度実績を基準値とした新中期計画の2年目が開始されました。2022年度の活動を振り返ると、社員数が203名⇒205名と人員的には微増しました。その中で電気使用量やガソリン年間実績は一部年度目標を達成できないものの、前年比で削減することができました。

本年度の具体的な数値を見てみると、電気使用量(前年比9%減)、ガソリン使用料(前年比4%減)、水使用量(前年比2%増)となりました。電気とガソリンは、コロナ禍の影響を受けて企業活動が戻った中での前年比減です。もちろんいろんな要因はあったかも知れませんが、地道なエコ活動の結果が出たものと認識しております。また前年漏水対策を実施した水道関係に関しては、概ね平均値が把握できてきましたの意識しながら節水を心がけてください。節水対策の一助とするべく、来年度は本社トイレも大幅に改修し、より節水効果の高い製品に替えるなどの取り組みも実施いたします。

また来年度より当社のエコアクション活動は、建設業対応も視野に入れて範囲を拡大して行きます。この点に関しましては、技術本部と総務部が主導し、新たな対象範囲となる工事部門でスムーズに実務対応ができるように検討を進めております。導入当初は混乱も想定されますが、来期には数値を把握で皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

最後に当年度の取り組み事例として、鹿児島支店における営業案件の照明LED化リニューアル等工事にお省エネ効果およびエネルギー量の削減に関して紹介いたします。躯体は介護付き有料老人ホームで、工事内容は施設内蛍光灯の全LED化、中性能フィルター見直しによるインバータ調整および換気扇の不要時停止になります。年間稼働の結果でCO2削減率で14.5%という実績が出ており、当社の企業行動と共に、地球環境に貢献できた良い事例になります。

#### <結果>

更新前			更新後		
2021年度			2022年度		
CO2排出量(t)	原油換算エネルギー使用量(KL)	電気使用量(千KWH)	CO2排出量(t)	原油換算エネルギー使用量(KL)	電気使用量(千KWH)
324	226	832	277	218	797
CO2削減率(%)			14.5		

なお当該工事は鹿児島研の省エネ設備等補助金を活用した事例です。